

2006年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日2007年 月 日

I 概要

実践団体・担当者名	千葉県立市川工業高等学校建築科 (担当者：菊池貞介・岩城弘和)
連絡先	〒272-0031 千葉県市川市平田3-10-10 Tel. 047-378-4186
プランタイトル	専門高校生による耐震診断ボランティアで 地域とアジアに結ぶ防災ネットワークの創出
目的	<p>専門の学習（建築設計製図や構造計算など）を活かして初期的耐震診断のボランティア活動を行い学習の深化を図るとともに、市民の防災意識向上に少しでも役立つ活動を行い、将来、アジアで活躍するスペシャリスト育成を目指す。</p> <p>また、本校の活動を広く他校に情報提供（全国工業高等学校長協会加盟、東日本建築教育研究会のネットワークを活用）し、全国の各地域にある専門教育機関としての工業高校が地域や海外での防災活動に貢献できるようになることを目指している。</p> <p>*：本校の耐震診断は、有資格者による「一般診断」に有用なデータを提供することを前提とし、相談者等には学習活動の一環として生徒がお手伝いをすることを明示している。</p>
プランの概略	<p>活動開始から4日目になる本年度は、地域の信頼できる技術者のネットワークづくりを目指した公開実験や耐震診断ボランティア活動、及び協力の輪を拡げる大学・公民館等と連携した研究発表を重視して展開した。</p> <p>また、これまでの成果を生かし平成15年度から実施しているネパールでの世界文化遺産調査活動に耐震性の観点から建造物の実態調査（写真記録等）を加えて行い、海外においても市民の防災意識向上を働きかけることを目指した。</p> <p>〈1学期〉・基礎理論の学習と情報発信の練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振動モデルを用いた基礎理論の学習、診断ソフトの習熟 ・研究施設等（日大理工学部大型実験施設）見学 ・地域の大工さん対象各種耐力壁の公開実験 ・第4回耐震補強フォーラム（東京） <p>〈夏休み〉・ネットワーク参加の呼びかけ&腕試しと実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門高校の研究団体（東日本建築教育研究会静岡大会）で「耐震診断」を通じた地域貢献活動と学習法を提唱 ・専門職員対象の耐震学習法の研修会（都立田無工高・都立葛西工高+千葉県工業教育研究会所属校） ・市民公開講座と実地調査で地域貢献 <p>〈2学期〉・防災意識啓発のための実大実験と講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木造アパート実大実験（鎌ヶ谷市） ・アジア子ども防災フォーラム和歌山 ・文科省地震防災セミナー（松戸市） ・公民館+千葉工大連携市民防災講演会（船橋市） ・市川市共催「耐震診断助成制度普及促進講演会」（市川市） ・市川工高&日大連携ミニシンポジウム ・日本ネパール国交樹立50周年記念エキシビション（東京） ・第4次ネパール国技術ボランティア隊カトマンズ耐震性の実態調査（カトマンズ）及び現地建築系大学生と危機遺産に関する意見交換会 <p>〈3学期〉・成果の報告と継承・協力の輪の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すみだ耐震補強フォーラム2007（東京） ・2006チャレンジプラン発表（東京） ・「町内まるごと耐震診断」2年生及び卒業生と合同で実施（船橋市） ・市川市ユネスコ協会「世界遺産ネパールの現状と課題」
プランの対象と参加人数	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の木工さん、専門家対象：公開実験+ミニフォーラムー計約190名 ・一般市民：防災講演会など約2000名 ・ネパール危機遺産調査：20名
実施日時	<ul style="list-style-type: none"> ・学習：3年生一毎週5時間（「実習」3時間、「課題研究」2時間） 2年生一毎週1時間（「総合学習」1時間） ・研究報告、防災講演会、実地調査、公開実験など：随時



<p>主な実施場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎理論等の学習や操作：建築科CAD室 ・ 公開実験：建築科材料実験室 ・ 研究報告など：視聴覚室 ・ 校外の研究発表会場など ・ ネパール カトマンズ市, パタン市, ハクタプル市 	
<p>連携した団体名、 連携の方法</p>	<p>連携団体の有無</p>	<p>あり</p>
	<p>連携した団体名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域市民（市川市宮久保三丁目北自治会／同市平田自治会／船橋市西習志野自治会他） ・ 市川市建築指導課 ・ 千葉県消防地震防災対策室 ・ 千葉県教育委員会学校保健課 ・ 千葉県工業教育研究会 ・ 東日本建築教育研究会 ・ 日本大学 ・ 千葉工業大学 ・ 東京情報大学 ・ 船橋東部公民館連合会 ・ （社）千葉県建築士会船橋支部 ・ （社）建築学会関東支部千葉支所 ・ 文部科学省、政府担当官（国土交通省・内閣府） ・ NPO「東京いのちのポータルサイト」他 ・ 建設会社（「耐震補強施工研究会」） ・ 平塚市及び墨田区耐震補強協議会 ・ 市川市ユネスコ協会 ・ 日本ネパール協会 ・ 在日ネパール人青年会 ・ 駐日ネパール国大使館
	<p>連携したきっかけ・理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域市民・自治会：地震防災意識の啓発と耐震補強推進を目指す一斉簡易診断「町内まるごと耐震診断」への協力のため ・ 行政：耐震補強・耐震診断の推進で目的が一致したため ・ 専門高校教育団体・大学：耐震学習の拡大普及のため ・ 建築士会等：技術的な相談と公開実験の広報 ・ 市川市ユネスコ協会 他：カトマンズの世界文化遺産の現状報告会
	<p>連携団体へのアプローチ方法</p>	<p>耐震技術を学ぶ生徒の学習に協力を願うことを第一の目的としているが、実は、生徒の活動を通して耐震診断や耐震補強を知ってもらうなど、市民への積極的な働きかけが急務であることを各担当者に本音で伝えて理解を得るようにした。</p> <p>新聞各紙やTVは、生徒たちの活動を好意的に取り上げてくださり、おかげで多くの方から理解を得られるようになった。</p>
	<p>連携団体との打合せ回数</p>	<p>とにかく多数！ e-mail やFAXで随時行いう形をとった。</p>
<p>連携団体との役割分担</p>	<p>生徒の学習活動を中心に据え、側面・後方からの支援をお願いした。</p>	

II プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	2名
	外部スタッフの総人数	1名
	主なメンバーの 役職・役割	菊池貞介 教諭, 総務 岩城弘和 教諭, 指導・連絡 八島信良 日大理工学部非常勤講師, 企画・指導助言 建築科3年生「課題研究」の耐震研究班 9名 建築科2年生「総合学習」の防災研究班 5名
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	18年1月4日 ~ 18年1月15日 耐震学習プログラムは、平成15年から実施している。
	立案時間	時間× 回 時間× 回
	上記のうち打合せ回数	回 *とにかく数え切れないほど多数!
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	<ol style="list-style-type: none"> 1 カリキュラム編成上、「実習」と「課題研究」の科目を同一日に連続させて学習時間を確保したこと。これにより、実験やフィールドワークなど5時間連続の充実した学習を展開できた。 2 連携する団体等からの助言・アイデアを柔軟に受けとめ実現に向けた。 3 生徒たちの心構え(学習の目的・使命)を確認する場面を多く設定した。 4 後に続く2年生たちを、「総合学習」の中の「防災研究班」に組み込み、3年生のお手伝いに積極的に取り組んでもらうようにした。 5 ネパールでの世界文化遺産調査活動に地震防災の観点を加え、市街の危険性を調べる。また、建築系の現地大学生と交流を持ち、地震防災の意識向上を働きかける。 	
プラン立案で 苦労した点	<ol style="list-style-type: none"> 1 フィールドワークでは、生徒たちの移動手段が電車・バス・徒歩に限られ、実地調査の希望に添えない方もいたこと。 2 時間割などカリキュラムを工夫するため、建築科の職員に理解を得られるよう努めたこと。 3 ネパール政府等へ地震防災の重要性を示し協力を得ること。 	

III 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	2名
	外部スタッフの総人数	1名
	主なメンバーの 役職・役割	菊池貞介 教諭, 総務, 企画, ネパール隊 岩城弘和 教諭, 指導・連絡 八島信良 日大理工学部非常勤講師, 企画・連絡・指導助言 及び特殊例の診断(建築士会)
準備に要した日 数・時間	準備期間	年 月 日 ~ 年 月 日
	準備総時間	時間× 回 時間× 回
	上記の内打合せ回数	回 *とにかく数え切れないほど多数!

教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 千葉県教育委員会学校保健課 ・ 千葉県工業教育研究会 ・ 東日本建築教育研究会 ・ 日本大学 ・ 千葉工業大学 ・ 東京情報大学 ・ 日本工業大学 ・ Nepal Engineering College
	どのように働きかけたか	<p>「建築」を学ぶ高校生や大学生であれば、耐震診断の学習は容易であり、耐震補強へ橋渡しの役になれることを訴えた。同時に、地域貢献の体験的な学習であり、さらに「命」の学習につながることを熱く語った。</p> <p>また、カトマンズの世界文化遺産ばかりでなく、街そのものが防災上極めて危険な状態にあることを強調した。</p>
	結果	<p>平成18年度—関東地区の4つの専門高校が実施 平成19年度—東日本で9つの専門高校が取り組みの手を挙げた</p> <p>同時に、2つの大学が木造住宅の耐震補強について研究活動を開始した。</p> <p>カトマンズのネパール技術大学建築学科の学生と危機遺産や防災に関する意見交換会を行い、次回は学生フォーラム開催のアイデアを共有できた。</p>
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	<p>市川市宮久保三丁目北自治会 市川市同市平田自治会 船橋市西習志野自治会 市川市建築指導課 千葉県消防地震防災対策室 市川市ユネスコ協会 ネパール国パタン市及びバクタプル市</p>
	どのように働きかけたか	<p>住宅の耐震診断を個々に行っているのは、一向に地域の耐震化が進まない。そこで、耐震補強に関心を高めてもらうため一斉簡易診断の「町内まるごと耐震診断」を提案し、地域全体で取り組むことが大切だと訴えた。</p> <p>また、ネパールの危機遺産の現状を多くの方に伝えたいと、市やユネスコやJICAに提案をした。</p>
	結果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年2月 市川市宮久保三丁目北自治会で「町内まるごと耐震診断」を実施した。 ・平成19年3月 船橋市西習志野自治会で「町内まるごと耐震診断」を実施に向けて現在進行中。 ・市川市民対象「耐震診断普及促進講演会」約180名 ・千葉県民対象 文部科学省・千葉県「地震防災セミナー」約300名 ・市川市民対象の防災講演会は、次年度も継続実施することになっている。 ・日本ネパール国交樹立50周年記念事業の一環に位置づけられ、研究報告の機会を得られた。 ・次年度のネパール派遣（第5次隊）では、防災も含めた建築系学生&市民フォーラム開催の方向で検討することになった。

保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	千葉県立市川工業高等学校PTA
	どのように働きかけたか	耐震診断講習会や防災講演会の案内を全校生徒にプリントして通知した。
	結果	講演会に参加されたPTA役員から話が拡がり、地元自治会への紹介に拡がった。
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	1 パソコン 2 デジタルカメラ・デジタル水準器・巻き尺 3 ミニ振動実験台「ぶるる」 4 実大耐力壁実験装置（手作り） 5 紙ぶるる
	入手先・入手方法	1～3は、これまでの校内予算から購入 4は、（社）千葉県建築士会船橋支部等からの寄贈
	機材・教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	3のミニ振動実験台「ぶるる」は、振動理論の学習と防災講演会でデモンストレーションのため。
参加者の募集	募集方法	地域紙。市のHP掲示板、学校のHP及びちらしなど
	募集期間	年 月 日 ～ 月 日 その都度、開催2ヶ月前から市の広報や地域紙へ開催案内を送り募集した。
	参加予想人数	市民公開講座等は大規模に募集ができた。 今年度を開始した、信頼できる大工さんのネットワークづくりを目指す公開実験などは20名以上は来てほしかった。
	実際の参加人数	市民公開講座等は延べ2000名近く参集された。 公開実験の参加者は70名。ただし、建設会社や設計事務所などの方々が多く、肝心の個人経営の大工さんはわずか7～8名だった。
	募集方法の成功点	千葉県主催のセミナーは、抜群の集客で、会場がほぼ満席となった。 建築士会、地元の建設業協会、生協の住宅メーカーなどには大きく拡がった。
	募集方法の失敗点	個人経営の大工さんに来てもらいたかったが、個人の大工さんは10名に満たなかった。
準備で苦労した点・工夫した点	<p>防災講演会は、市や県が広報活動をしてくれたのでたくさんの方々に集まっていた。</p> <p>しかし、参加者が、ただ話を聞いて終わるのではインパクトが弱く耐震診断に結びつかないと考え、講演の休憩時間に生徒たち全員がロビーで市民を待ちかまえ、10項目点検の「誰でもできるわが家の耐震診断」シートに取り組んでもらった。</p> <p>これは大変な効果があり、個別相談を受けたり次回の耐震診断公開講座に参加希望を頂戴した。生徒たちのまじめな姿勢は、たくさんの方から好意的に受けとめていただけた。</p>	

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実 践
2005 11月			・文化祭にて研究発表
12月	*市民防災講演会と研究報告のまとめ		
2006 1月	本年度の研究プランを立案	「町内まるごと耐震診断」に卒業生への参加を呼びかけ	
2月		新3年生「課題研究」の班分け希望票提出	・市川市「町内まるごと耐震診断」実施 ・「課題研究」発表会
3月			
4月	学習計画 実験計画	「課題研究」班分け 日大理工学部との打ち合わせ	・基礎理論の学習
5月		公開実験の準備 機材調達の打ち合わせ	・耐震診断ソフトの操作法学習
6月		研究発表用パネル、スライド準備 公開講座各紙へ案内FAX	・各種耐力壁公開実験(日大と共同実験) ・第4回耐震補強フォーラム
7月		配付資料印刷 第4次ネパール国技術ボランティア隊の結成	・専門職員研修・市民公開講座 ・全国研究大会で「耐震診断」学習を提唱
8月	公開講座の反省 2学期の立案	実地調査の希望調整	
9月		実地調査地への交通手段を検討 大学・施工研究会と実大実験の打ち合わせ 市川市・千葉県との打ち合わせ	・実地調査(市川市ルーテル教会他) ・日本ネパール国交樹立50周年記念エキシビジョン写真パネル展示で危機遺産の現状を訴える
10月		くろしお教育サミット参加準備 研究発表用印刷物・スライド作成 千葉工大との打ち合わせ2回	・木造アパート実大実験(日大・施工研究会)
11月		千葉工大との打ち合わせ2回 日大理工学部との打ち合わせ	・文化祭研究発表 ・アジア防災教育子どもフォーラム ・実地調査 ・文科省地震防災セミナー ・公民館・千葉工大連携市民防災講演会 ・亜細亜大学「アジア教育奨励賞」受賞
12月		発表練習 ネパール写真記録演習	・市川市共催市民防災後援会 ・日大連携ミニシンポジウム ・第4次ネパール国技術ボランティア隊カトマンズ危機遺産を地震防災の観点から実態調査(生徒5名)
2007 1月			・総務省消防庁主催「第11回防災まちづくり大賞」消防庁長官賞受賞

V実践の詳細 【A. 素材】(メインとなる活動を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	振動理論を調べよう	耐力壁の公開実験	耐震診断ソフトの操作法	耐震診断実地調査
実施日				
所要時間	45分			
達成目標	振動周期, 振幅を計測する	加圧操作と正しい計測	ソフトの操作法に慣れる	正しい耐震診断法
生成物	計測データ	実験データ 破壊された試験体	診断結果一覧	調査データ
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験装置準備 ・ 役割分担(時計/回数計測/振幅測定/写真記録) ・ データ集計 ・ 公式へ代入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ センサー確認 ・ 加圧 ・ 数値読み取り ・ 写真記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅の図面読み込み ・ データ入力 ・ 出力 ・ 結果の照合と評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 点検係り分担(基礎/床下/柱の傾斜/天井裏/間取り) ・ データ収集・写真撮影
ツール (特別に用意したもの)	ミニ振動大「ぶるる」 メトロノーム	各種耐力壁実験装置(オリジナル)	耐震診断プログラム	シュミットハンマー(コンクリート非破壊試験器) デジタルカメラ
場所	建築科CAD室	建築科材料実験室	建築科CAD室	実地調査の依頼のあった住宅

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	耐震診断公開講座	防災講演会	自分でできるわが家の…	
実施日	7/21・22	5回	3回	
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標	正しい診断	落ち着いて発表	市民からの聞き取りと市民へのプレゼン	
生成物	診断結果票		点検表	
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図面の読み取り ・ 実情の聞き取り ・ データ入力 ・ 分析 	パワーポイントで説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休憩時間にロビーに出てきた方へ10項目点検を勧める 	
ツール (特別に用意したもの)	耐震診断ソフト	写真データ	10項目点検表	
場所	建築科CAD室	各会場	各会場	

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	世界の耐震補強金具・技術			
実施日	10月			
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標	インターネットで海外のサイトから有用な情報を入手する			
生成物	プレゼンテーション資料			
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットの検索術 ・ 検索後の英訳術 ・ 画像の保存法 ・ 著作権の学習 			
ツール (特別に用意したもの)	パソコン、インターネット英訳サイト、フリーソフト			
場所	建築科CAD室			

VI実践後

参加者へのアンケート結果	生徒たちのまじめな様子がとても好意的に受けとめられ、市民からは問い合わせの電話や耐震診断講座・実地調査などの希望が出された。	
成果として得たこと	<p>耐震診断や耐震補強などの自ら勉強している内容が、市民から求められているものであり、また、気がついていない市民に対しては伝えていかなければならないという使命感を抱くにいった。</p> <p>講演会や多くの研究報告会では、自分たちの研究成果を通して市民の防災意識の向上を願う姿勢を学んだ。</p> <p>ネパール国カトマンズでの活動では、危機遺産の建造物ばかりでなく建築中の建造物まで耐震性の観点から極めて危険な状態であることが明らかとなり、国内と同様に市民の防災意識向上が急務であることを学んだ。</p>	
成果物	新聞各紙多数	
広報方法	広報した先	市内全域の住戸 新聞各紙 千葉テレビ
	広報の方法	回覧板（市川市協力）、FAX、市川市WEB掲示板
	取材にきたマスコミ	市川市広報部 新聞各紙 千葉テレビ NHK
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	各紙別添の通り 千葉テレビ 計3回 FMサルース「サロンド防災」2008/01/17～28 放送 NHK-FM千葉 2008/01/17 生放送 NHK-TV 2008/02/07 夜のニュース
	成功点	<ul style="list-style-type: none"> 各紙の報道により、広く地域の方々に耐震診断の内容と本校の学習活動を知っていただくようになった。 新潟県、大阪府、山口県の建築指導課から具体的な問い合わせを受け、報告資料等を送った。 ネパールに関心のある方々へ、地震防災上も極めて危険であることを伝えられた。
失敗点	<ul style="list-style-type: none"> 耐震診断装置の売り込みにあった。 	
全体の感想と反省・課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちは、市民から専門的な相談を受けたり、また具体的な助言をして喜ばれるなど、自分の学習が人の役に立つことを全身で知ることとなった。 本校の学習活動プログラムを、群馬県藤岡工高、都立葛西工高、都立田無工高に伝え、ともに耐震診断ボランティア活動を開始することができた。また、次年度はさらに9校が手を挙げており、専門高校の地域への貢献が面的に拡がることとなった。 一斉簡易診断の「町内まるごと耐震診断」は、専門家への橋渡しとして有効であることがわかった。 耐震診断ボランティアに参加している2年生が、ネパール国カトマンズの危機遺産調査ボランティアに参加したことから、カトマンズの建築物が耐震上も極めて危機的な状況にあることが明らかになった。 「亜細亜大学アジア教育奨励賞」や「防災まちづくり大賞消防庁長官賞」に輝き、専門的な活動の生徒たちにとって大変大きな励みになった。 	

今後の予定	来年度以降の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耐震診断ボランティア活動をさらに多くの専門高校に拡げる。(東日本建築教育研究会) ・ 小中学校と連携した地震防災学習。(千葉県教育委員会防災教育検討委員会) ・ 一斉簡易診断の「町内まるごと耐震診断」を拡げる。 ・ カトマンズの建築物が耐震上も危機的な状況にあることを、国際機関に伝えること。及び、地元市民に訴え地震防災への理解を図る活動を目指す。(パタン市旧王宮前広場での建築学生フォーラム開催)
	是非実施してみたい 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独居老人宅の耐震診断を、市の福祉課と連携を図り進めたい。 ・ 海外での建築物について地震防災調査を行いたい。
自由記述	<p>平成15年度から始めた木造住宅の耐震診断ボランティア活動は、診断の次にくる補強工事推進の段階に移り、今年度実施した公開実験の目的とする「地域の信頼できる施工業者のネットワークづくり」に発展した。年度の後半は、さらに2つの大学との連携に進出し学生たちと合同で実験と研究報告会を行うに到った。</p> <p>これは、何よりも生徒たちの直向きな学習姿勢が、多くの方々からの協力を引き出したこと。さらにまた、生徒たちの横に立って、難しい場面でも明るく前へ進むことをご指導くださった八島信良先生の大成果でもある。</p> <p>生徒たちが一軒一軒を廻り、床下や天井裏まで点検する実地調査は、正確な診断の学習につながり、相談者の不安を取り除くとともに耐震補強に進むインパクトを持っていた。</p> <p>しかし、1軒当たり2時間、1日頑張っても2軒がやっとだ。校舎の窓から拡がる近隣地域は建て詰まりが酷く、一昨年訪ねた神戸の長田町と同様に1ブロック完全焼失の危険性が極めて高い状況にある。</p> <p>耐震診断・耐震補強は、点より面だ！ 自治会の理解と協力のもとに「町内まるごと耐震診断」がスタートし、「あそこのお宅がやったなら、ウチもやろう」と一気に簡易診断が拡がった。</p> <p>もう一つ、新たな展開があった。 建築科の防災研究班（「総合学習」2年生）に所属する生徒が、第4次ネパール技術ボランティア隊に参加したことから、カトマンズの世界文化遺産調査に耐震性の観点を加えた実態調査を行うことになったのだ。専門の学習を生かした貢献活動が国外へ拡がり始めた。</p> <p>初めてのネパール。車窓から目を見張る生徒たち。カトマンズ市内に入り建築途中の鉄筋コンクリート造ビルの柱を見るなり、「先生！柱が細いよ！」 「開口部が多すぎて壁がない。これは危ないよ！」と声を上げた。専門の学習が身についたことを証明する瞬間であった。</p> <p>神戸市での防災ワークショップの時、専門をこつこつと勉強する彼らは、不正をはたらいた建築士を「絶対に許せない」ときっぱり言った。 また、学校にTV取材が入ったときも「(大学で)もっと勉強して、将来は皆さんの役に立てる建築士になりたい」とテレビカメラに向かって語っていた。 本当に素晴らしい生徒たちと取り組むことができた。感謝でいっぱいである。</p>	

